

2022年6月25日(土)

水俣芦北公害研究サークル 4代目代表

# 梅田 卓治 先生

## オンライン研修会

現地水俣での水俣病学習について、地域内でどのような授業を  
実践されていたのか話していただいた。

患者さん、生徒との交流を通じて、教師もともに育ててもらったという  
今も含む貴重なお話し。

主 催 水俣から学ぶティーチャーズネットワーク  
共 催 (社) 環不知火プランニング  
助 成 熊本みらい基金  
協 力 神戸市小学校教員 (司会進行: 竹中美香子、オンラインパイロット: 増山光、武藤太平、オンライン受付: 吉田かよ子)  
コーディネーター (社) 環不知火プランニング代表・森山亜矢子

# 梅田 卓治 先生

## オンライン研修会

2022年6月25日(土)

テーマ：『現地水俣での水俣病学習』

内容：現地水俣での水俣病学習について、地域内でどのような授業を実践されていたのか話していただいた。患者さん、生徒との交流を通じて、教師もともに育ててもらったという今も含む貴重なお話し。

<前半部>

梅田先生講話

こんにちは。紹介いただいた水俣芦北公害研究サークル4代目代表の梅田卓治と言います。僕は一旦学校を退職し、再任用で小さな山間部の小学校に勤めています。再任用5年目になり、特別支援の担任をしています。今日は、こういう機会を作っていただきましたので、一時間半有意義な時間になればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介を簡単にしたいと思います。いつもついつい喋りすぎて、肝心なところで時間が足りなくなりますので、ここは簡単にお話しします。チッソ社員の長男として、1958年2月11日に水俣で生まれ育ちました。祖父は北朝鮮の興南工場に勤め、父は一緒に行っていたので、終戦とともに命からがら帰ってきた経歴を持ちます。祖父も父もチッソ社員でしたので、小さい頃から僕に入ってきた情報というのがチッソ側の情報ばかりでした。今日は、授業の実践を中心にお話してくれと言うことですので、「豚肉事件」「中体連事件」など、僕自身が小中学生のとき経験した話もしたかったですけれど、時間も限られているので、よければ水俣においでになった時、この話はじっくりできるかなと思います。よかったら水俣に長期休業など利用しておいでになってください。

「出身地事件」のことだけお話をしたいと思います。僕が大学をどこに行こうか迷っていた時代は、一期校、二期校最後の年で、二段階受験ができました。そして、二期校をどうする

か迷った時に母の弟が神奈川県にいたので当時二期校だった横浜国立に行くことになりました。北は北海道から南は九州から来ている仲間がいました。そこで最初は、「お前出身どこだ？」という話になるわけです。その時に僕自身は、自分の出身をストレートに「水俣」と言えませんでした。「九州だ」という言い方をするのは。少し付き合いが長く、深くなってくると「九州のどこだ？」ってなるわけです。それでも「熊本」と言って、「水俣」の名前を言えない。「あの火の国熊本の出身か」と言われる。見た目がこういう格好ですので、なるほど暑苦しい感じの熊本出身で納得してもらって終わる。だけど、もっと付き合いが深くなると「熊本のどこだ？」と言う話になるわけです。その時に、「実はあの水俣だ」と言うとほとんどの友達が、「あの水俣病の水俣か」と答えます。そして、必ずその後質問がついてくる。「お前は水俣出身なのになぜそんなピンピンしてる？」と。元気な見た目をしていたのでいつも質問されていました。その時に答えていたことがとても情けなかった。「俺が食べていた魚は、ずっと沖合でとってきた魚だ。水俣病の方たちは、沿岸で魚を獲って多食した人たちだから、まったく俺とは関係ない。自分が食べていた魚は、水俣病の患者さん達が食べていた魚とは違って、だから俺はこんなにぴんぴんしているんだ。」と言う、とんでもない説明をしていました。

そんな説明を聞いて、ほとんどの人はそれで終わる。「ああ、なるほど」と言うように納得していました。それをいいことにそう言った説明を繰り返していたのです。

関西から来ていた友達が、お酒の勢いもあったのかかもしれませんが、急に怒り出したのです。「梅田、お前は今までストレートに水俣って言えなかったろうが、お前は心の中に自分の故郷「水俣」に水俣病っていう病気があってそれを恥ずかしいと思っているだろう。水俣病患者がいることを嫌だという思いがあるからだろう。」と突っ込んできました。返す言葉がありませんでした。

その通りだったからです。でもそのときにその声をかけてくれた友達のおかげで、いかに僕自身が故郷水俣と向き合えていない、水俣病問題としっかり向き合ってこなかったというのを思い知らされました。

まあそういう僕自身の、「水俣病と出会いができてなかった」ところが、今の僕自身の、この公害サークルに入ってもっと知らなくちゃいけないというきっかけになったと思います。

学校に赴任したら水俣病のことを話すことになりました。初任の菊池郡の西合志南小学校では、今、皆さんにお話ししたような出身水俣を語れなかったという話を子供たちに話すことは、一度もありませんでした。この小学校は、人権同和教育を真剣に取り組んでおりま